

# 就労支援事業所きまま舎の10年を振り返って

## ■はじめに

私が、行田さんと2人で、きまま舎を立ち上げてから、今年の5月で10年になりました。10年前にささえあい生協での仕事おこしの第一歩が始まりました。多くの職員の努力と苦闘があり、今日の就労支援事業所きまま舎があります。この10年を振り返り、今後の糧となればとまとめてみました。

2019.10.1

所長 武田貞彦

## ■これまでの経過

- 2009.5 きまま舎開業（職業訓練ヘルパー2級講座 旧職業能力開発機構からの委託事業）
  - 2009.9 コミュニティカフェ鳥の歌（ふるさと基金事業）開業
  - 2010. ささえ愛弁当亀田開業（ふるさと基金事業）（2012年事業譲渡）
  - 2010. ささえ愛大地開業（ふるさと基金事業）2012地域活動支援センターへ（2019よろずクリニックのB型へ併合）
  - 2011 基金訓練事業でヘルパー講座を藤又さんが担当し、翌年のささえ愛ゆうの設立に繋がる。
  - 2012.4 地域活動支援センターコミュニティカフェごっちゃん（地活）開業
  - 2014.4 就労支援事業所きまま舎（移行・B型／障害者総合支援法）開業
  - 2015.9 コミュニティカフェごっちゃんを天寿園カフェ Kimama に移転
  - 2016 講座事業を本部事業に継承
  - 2019.4 生活困窮者支援 就労準備支援「晴れる屋」協力開始
  - 2019.5 開業10周年
- ※株式会社日栄からの清掃の管理事業を引き継ぎ、「そろっと」として来春3月をめどに、きまま舎から独立の予定

きまま舎の開業は2009年5月で、当時の職業能力開発機構の公共職業訓練ヘルパー2級講座の委託事業から始まりました。ヘルパー2級講座のノウハウは、武田が前職の労協センター事業団で学びました。行田さんとは、これ以前、新潟初のニート支援講座で出会いました。講座事業が、これに続く3つのふるさと基金事業（「鳥の歌・就労支援」／「宅配弁当」／「大地・農業で就労支援」）の基盤となりました。真柄さんは2009年のコミュニティカフェ鳥の歌の職員3人の中の1人でした。翌2010年、労協センター事業団にいた居川さんが合流。ささえ愛大地・講座・経理を担当しました。鳥の歌の2年半後、ふるさと基金事業が終了を迎える中、事業の継続を模索し、新潟市地域

活動支援センター事業（地活）に活路を見出します。地活になるとき伊藤さん入職。渡辺さんがごっちゃ利用者から職員になりました。山王苑の清掃業務が始まりました。行政からは「3年後には、法定施設（B型など）へ移行を」と言われましたが、2年後に移行・B型へ移行しました。移行事業については知識がありませんでしたが、行政のことを聞いていたほうが得と考えて実施しました。この時、景山さんが入職。なじょも、風の笛の清掃業務が始まりました。2015年天寿園カフェへの移転時に田村さんがごっちゃ利用者から職員となりました。

#### ■教訓いろいろ

- ① ヘルパー講座は2009年から2016年まで計16回開催し、卒業生は345名です。始めた当初はリーマンショックのあおりで失業した人が多くいました。そんな方たちに「大変でしたね」とねぎらいと励ましの言葉をかけ、「モラトリアムの時間で新しい自分に出会う機会にしてください」「新しい仲間となってください」と仲間作りを奨励しました。始めは元気のなかった人が、日を追うごとに力をつけ卒業（就職）していく姿を見ました。このことが、現在のきまま舎の支援論の基本になっています。ささいあい生協に21名の講座卒業生が働いています。事業所の屋台骨になっていることに誇りをもっています。
- ② 講座事業（人・お金）が今日のきまま舎事業（人・お金）を支えてきました。職員の出資と剰余の累積で現在の事業を支えています。出資金総額736万円、累積剰余2,165万円。
- ③ 講座も、ふるさと基金事業も委託・期限付き事業です。継続的展望がない不安定さがついて回りました。介護事業所が退職金のことを議論しているのを横目で見ながら、ため息をついていました。そういう時代があったことを忘れないでほしい。地活から移行・B型への進展は、こうした不安定からの脱却でした。うれしかった。
- ④ 弁当事業は、事業能力、特に販売・営業能力が不十分だったと思います。きまま舎全体で支えるという意識や体制も不十分だったと思います。累積していく赤字に耐えられず、事業継続を希望していた管理者に事業譲渡しました。大地は、今年度よろずクリニックのB型に引き継がれました。地活は一昨年来、報酬の引き下げがあり、どこも苦戦を強いられています。制度は変わるので怖い。
- ⑤ 移行・B型は国の制度ですが、介護保険制度がそうであるように、報酬の変化が激しくあります。報酬の変化は、行政の意思の変化ですから、加算を含め、しっかりした対応が必要です。また基本的には、制度事業だけでなく、独自事業を開発・発展させ、事業の継続性を確保するとともに、社会（利用者・地域）の要請に応じていくという方向がととても重要であると思います。
- ⑥ 清掃3現場について。地活の立ち上げ時、清掃事業がいいのでは、と考え特養等にアプローチしましたが、既存の事業者がありダメ。新規オープンにアプローチし、たまたま

山王苑の理事長と知り合いだったため、獲得に至りました。なじも、風の笛は、県生協連合会で理事同士のつながりが元で獲得に至りました。施主側は、通常の委託費を出しているのに、サービスの質は絶対落とせない。さらにサービスの質を上げていく（よい仕事）ことを肝に銘じてほしいと思っています。新潟医療生協とは協同組合共同をすすめていきたい。

- ⑦ 天寿園カフェは、田村シェフのレベルがあり、今日までのお客様の入りがあると思います。ここも、サービスの質を絶対に落とさず、さらに上げていく不断の努力が重要であると思います。パンフにもあるように「目の前の仕事を職員が利用者と一緒に全力で取り組む」ことがきまま舎スタイルの要であると信じています。
- ⑧ 労協連の教えに忠実に「協同労働（働く者どうしの協同・利用者との協同・地域や行政との協同）」「よい仕事」「仕事おこし」を実践してきたつもりです。結果、今日の「まあまあ運営」につながっていると思っています。
- ⑨ 「協同労働」では、「職場の仲間を尊重し合う」ことに注意してきたつもりです。得手不得手は人それぞれに異なります。補い合う、お互い様という姿勢でやってきた結果、私自身が一番、ささえてもらいました。
- ⑩ 職員の月々増資の参加率 90%。経営意識（自分たちが経営している）は、不断の努力が必要かもしれない。
- ⑪ 「よい仕事」については特に意識してきたわけではありませんが、今日の「きまま舎スタイル」（共に働く／利用者の尊重）に表れていると思います。「仕事おこし」は、旺盛に挑戦してきたと思います。最近は少なくなっているので、地域に必要とされる事業所を切り口に、挑戦を続けていってほしいと思います。
- ⑫ 2009年度の決算で 255 万円の剰余が出ました。これを各人（6人）に分配したうえで全額出資に回すことにしました（この方法は労協センター事業団で学びました）。この時の出資金で小林さんが病気になったときの社会保険料の個人負担分（1年半）を賄い、（傷病手当金を受給）身分を継続しました。また、きまま舎の職員であった藤又さんの事業所（ささえ愛ゆう）立ち上げのために、武田、行田が労金から各 80 万円を借金し、出資に回しました（利子分はゆうから支払われた）。これは、去年の長岡市のささえ愛まえかわの立ち上げメンバーが法人から各自 100 万円を借り入れ、出資金に回す仕組みとして議論されました（実際は法人からの借り入れはなかった）。今年度のささえあいセレモニーの立ち上げにあたって、責任者が法人から 60 万円を借り入れし、出資に回しました。現在、この仕組みは「新事業出資金貸付制度」として制度化されています。
- ⑬ 2017年度は、利用者のリファーが極端に少なく、苦劳しました。原因は、A型の多数の新設、全国展開の移行事業所新設（黒船現象）に伴い、就労を目指す人たちがそれらに流れたと思われます。①リファー元を意識し、しっかりした関係を作る②見学等の利用者で全力で対応する③きまま舎の特徴を自覚化し強みを活かす などの改善を行ってきました。また、こうした事態の中で、ハローワークに募集がかけられるA型を経営の

安定という側面からも進めることとなりました。新潟市で3つ目の全国展開の移行事業所が4月に新設され、黒船現象に対抗した事業展開をどうするのかは喫緊の課題です。

- ⑭ 2018年は、PCソフト「ほのぼの」を導入しました。脆弱だった利用者情報管理、個別支援計画の計画的作成に成果を上げることができました。この前に導入を試みたファイルメーカーは失敗しました。
- ⑮ 経営会議は月1回（事前に運営委員会3名）。カンファ月2回。職員研修会月2回。清掃会議月1回。いずれも、勤務時間内。年度末に所長による、職員個人面談（居川さんがルール化してくれた）。予算や業務の希望・要望なども事前アンケートし、新年度予算計画に反映する仕組み。給与を含め、オープンですが、本音の議論は不十分だと思います。各自がやりたいことをやる（全体合意が必要）。各自の夢を実現する事業所（法人）でありたいと思います。今の仕事や働き方で満足なのか？どんな仕事や働き方を望むのか？どんな事業所にしていきたいのか？一人一人が「働く経営者」なのだから、もっともっと活性化させていきたい。

#### ■きまま舎の現在

「きままスタイルで行こう！」（2019年度版）参照

就労支援事業所きまま舎は、2019年8月末現在、職員12名（うちパート2名／これとは別に清掃パート9名）、利用者登録者57名、事業高7,800万円／年、（うち生産活動高1,200万円／年）（事業高のうち2,000万円は「そろっと／清掃事業」）となりました。

#### ■これからのきまま舎

こうして10年を振り返ってみると労協連の「協同労働（働く者どうしの協同・利用者との協同・地域や行政との協同）」「よい仕事」「仕事おこし」という理念の優位性があったと思います。また、「お金の回る中核事業を据え、理想はその周辺に」という教えにも納得がいきます。この教えに沿えば、これからのきまま舎の10年は、理想の追求ということになるでしょうか。

具体的には

- ・中核事業としての障害福祉サービス事業（就労を望む人は就労を。居場所を望む人には居場所を）の充実。今年から始まった生活困窮者就労準備支援事業の発展。加えて、A型・グループホーム・沼垂ハウス（シェアハウス）・生活支援などの拡充。必要あれば介護事業などの展開。
- ・仕事おこしへの意欲。他人に雇われる生き方ではなく、自らが仕事をおこし、ささえあいの地域を創っていくという理念の共有化をもっとすすめてほしい。利用者が働ける仕事を

創るということ。

・障害でなくても最賃以上が支払える事業所への展望。就労に困難を抱える人たちの働く現場を創る。社会的協同組合への展望。

・音楽・スポーツ・演劇など地域の中での文化活動へ参加。「フツの暮らし」の実現。

・ささえあいサポート事業（へるぷs）の一翼を担い、地域に必要とされる事業体へ。

・こども食堂・学習支援など生活困窮者支援事業と連動する事業を展開し、地域に必要とされる事業体へ。

・集いの館のような地域の福祉拠点づくりへの呼びかけと連携。ささえあいの地域づくりをもっともっとすすめよう。

#### ■きまま舎から旅立った職員たち

- ① Iさん～寿退社
- ② Tさん（利用者）～卒業
- ③ Yさん～本部へ
- ④ Iさん～ささえ愛よろずへ
- ⑤ Iさん（利用者）～体力・気力の限界？
- ⑥ Iさん～ささえあい生協の本部看護師へ
- ⑦ Oさん～体力の限界？ささえあい総代
- ⑧ Hさん～人間関係？
- ⑨ Tさん～ちょっと難しかった？
- ⑩ Sさん～現場のAさんに切れる
- ⑪ Fさん～ささえあいの事業所管理者へ
- ⑫ Kさん～発病 現利用者
- ⑬ Hさん～弁当事業の経営不振
- ⑭ Mさん～委託終了時退職
- ⑮ Sさん～事件・事故でクビ？

#### ■まとめ

若いころから、平和・平等・人権等の価値観に基づく社会活動に参加してきました。1991年37歳の時、旧亀田町の議員（1999年45歳まで県議）となり、生活と政治について考えました。生活も政治も市民（私達）が主人公であるはずなのに、かけ離れた現実に対し奮闘しました。2015年にセンター事業団の職員となり、労協連・協同労働と出会います。いわゆる運動は経験してきましたが事業というものとはそれまで無縁でした。「社長などという人種は、自分の儲けだけ考えている」程度の認識でした。協同労働に出会い自分（達）が経営するということに初めて直面しました。運動にはない力強さをもった事業、社長という人種のバイタリーさと魅力、などなどを学びました。社会運動で学んだものは、社会の半分で

しかなかったと思いました。

通常、株式会社などは「資本（出資）」「労働」「経営」は別々の人間がやっています。労働者協同組合（協同労働）はこの3つを一体のものとして、そこで働く者が主体者として取り組むというものです。「他人に雇われる（せいぜい個人事業主）」という考えしかなかった私にはショックでした。「他人に雇われる」という言葉には、「嫌なことがあっても我慢する」というイメージが付きまといまいます。「自己実現」などという言葉となんとかけ離れたことか。働く自分たちがお金を出し合って、事業所を起こし、みんなで話し合って、仕事の内容や賃金を決めていく。そんなことが本当に可能なのか?! 夢のような話だけど、そんな理想的な働き方ができるのかもしれない。そして、現在多くの人のいきづまった働き方を解決できるのでは、という一筋の光のようなものを感じて、今日までやってきました。

私達（市民）が社会の主人公になるためには、社会、政治、経済の全領域において主人公でなければなりません。協同労働の中で出会ったもっとも刺激的な言葉は「これまでは資本が労働者を雇ってきたが、これからは労働者が資本を雇うことになる」（レイドロー報告「西暦 2000 年における協同組合」）というものでした。そんな大胆なことを考えてきた人たちがいたんだ！と驚きました。

世界を見渡せば、新自由主義のグローバル経済は誰の目から見ても終焉に向かっているのではないのでしょうか。その一方で、世界中で同時多発的に社会的連帯経済の萌芽が産み出され、大きな奔流へと出現しようとしています。私達のきまま舎・ささえあいコミュニティ生活協同組合新潟もその小さな萌芽であったと、いま認識することができます。イマだけ・カネだけ・ジブンだけの社会から、ささえあいの社会へ。輝く世界の1ピースとなれるよう、明日からまた、仲間たちとともに生きていこうと思います。ADHD系の問題ある私を今日まで支えてくれた関係者の皆様に感謝します。最後までお読みいただきまして、誠にありがとうございました。

合掌